

# 天塩川暦



## 天塩川

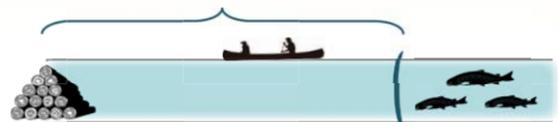
天塩町に注ぐ天塩川は、流路延長 256kmと全国第4位、北海道では石狩川に次ぐ第2位の長さの級河川であり、北海道で唯一、北に向かって流れる大河です。天塩川の語源は、アイヌ語で「テッシ」築（やな）の多い川という意味に由来します。

## フェノロジーカレンダー

地域の自然と人の営みを表した生活季節暦のこと。それぞれの地域の動植物、祭礼行事、食の旬などの1年間の移り変わりを一目でわかるようにしたもので、自分の住んでいる土地とその特色を理解することができます。

## 天塩川の日本一

### 1. 日本最長のカヌーツーリング



### 2. 高級ヴァイオリンの材料

### 3. 日本最大の淡水魚 イトウの生息数最多

#### 1. 日本最長カヌーツーリング

天塩川はダムや堰堤など川を遮る工物の無い区間が157km≒100マイルと日本一です。つまり、157kmの区間にわたって人も魚も行き来ができます。

日本一長いカヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシ・オー・ベツ」が1992年から毎年夏に開催されており、本格的なカヌーツーリングを楽しむことができます。

#### 2. 高級ヴァイオリンの材料

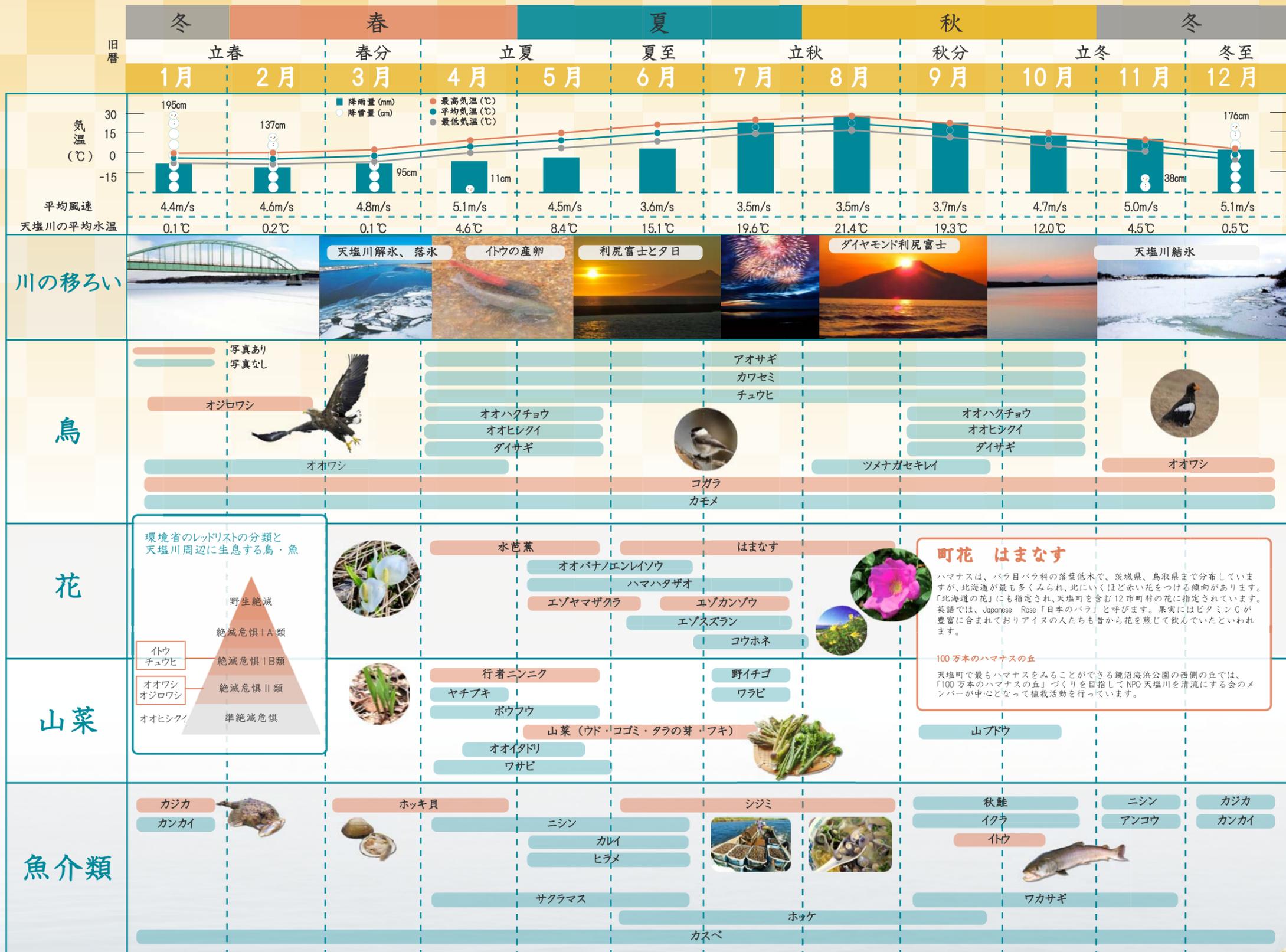
今から約100年前の明治時代、日本で最初にヴァイオリンを製作した「日本のヴァイオリン王」と呼ばれた「鈴木政吉」が製作し、現天皇陛下もご所有するヴァイオリンの表材は、「天塩松」(天塩産アカエゾマツ)が使用されています。

天塩川の河口（現在の鏡沼海浜公園キャンプ場）付近から、北海道外、海外に輸出されていました。

#### 3. 幻の魚イトウの生息数最多

絶滅危惧種に指定されている「イトウ」は、半世紀以上前には北海道内の河川に広く分布していましたが、現在では7水系のみに生残しています。天塩川は（河川水系単位でみた場合）残存するイトウの生息数が最も多いとされています。毎年夏から秋にかけて、全国からイトウを求めて釣りが訪れます。

他にも、絶滅危惧種である野鳥「オジロワシ」や「オオヒシクイ」も観ることができ、天塩川周辺には連続した豊かで多様性のある連続した生態系が残存しています。



## 天塩のじみ三大特長

- 一、蝦夷の三絶の一つ
- 一、日本で唯一国立公園内で獲れる
- 一、最も粒が大きく、最も成長が遅い



天塩町内の飲食店ではじみラーメンを提供しています。天然のじみだしを味わってみてはいかがでしょうか。

(春) 天塩川 膨らみ帰る 雁も去り  
(夏) 螢目の 間に落書き するごとし  
(秋) 今朝秋の 白波目立つ 河口かな  
(冬) 寒月を 川面に宿し 天塩川

## 俳句を詠む

季節の移ろいを感じられる天塩川は、句材の宝庫。毎年、道内外から俳句愛好家も訪れます。天塩青女俳句会の中には、北海道文学館俳句賞で大賞を取った方、雑誌掲載された方、句集を出版した方もいます。天塩川の風景や、上記の表にある鳥、花、山菜、魚介類を題材に、一句詠むのも天塩の旅の醍醐味です。

# 天塩川下流域に生息・生育している動植物



## 鳥類



**ツメナガセキレイ**

日本では夏鳥として、農耕地、湿原、海岸草原などで見られ、夏羽は体の下面が黄色でよく目立つ。



**コハクチョウ**

10~12月、3~5月上旬頃に日本へ渡来し、湖沼、河川、河口などで見られる。くちばしの黄色が特徴。



**オオヒシクイ**

10~12月、3~5月に日本へ渡来し、湖沼、河川、水田などで見られる。橙色の口先と白いお腹が特徴。



**オオジシギ**

4月中旬~9月上旬頃に全道の草地で普通に見られる夏鳥。背や翼には黒い褐色の地に黄色の太い線がある。



**オジロワシ**

10月頃~3月頃に冬鳥として飛来。主に海、湖沼、幅広い河川に近い森林で見られる。くちばしは淡い黄色。



**チュウヒ**

夏鳥で3月~9月頃までヨシ原、農耕地、牧草地などで見られる。飛ぶ時は、翼を上反らしV字型に保つ。



**コガラ**

日本では、一年を通して、主に山地、低地の森林などで見られる。針葉樹林を好むと言われる。天塩町の町鳥。



**オオワシ**

10月下旬頃~4月上旬頃まで、沿岸の河川、海岸で見られる。大きな黄色のくちばしと黒白の羽色の特徴。

## 魚介類



**イトウ**

日本国内の分布はほぼ北海道のみで、主に河川下流域の湿地帯や湖沼に生息し、産卵期は4~5月である。



**ウグイ**

成魚の全長は降海型30~35cm、淡水型20~25cm程度である。体は銀白色で、腹部は白みを帯びる。



**サケ**

太平洋側では利根川以北、日本海側ではほぼ全域の沿岸や流入河川に生息。成魚の全長は50~80cm程度になる。



**カワシンジュガイ**

北海道と本州に分布し、夏季の水温が20℃を超えない、清冽な水が緩やかに流れる水域の礫~泥底に生息する。



**スナヤツメ**

繁殖期は4~6月で、変態後、海へは下らず成長しないで翌年の春に産卵する。成魚の全長は20cm程度になる。



**ヤマメ**

サクラマスのうち海へ下らずに河川で一生涯を過ごすもので北海道全域で見られる。全長は約30cm程度になる。



**ウチダザリガニ**

昭和初期頃に北米から輸入された特定外来生物。体長は15cm程度でハサミの付け根が白色という特徴がある。



**シマウキゴリ**

河川の下流から中流域に生息。日没後から深夜にかけて餌を求めて活発に動いて水生昆虫の幼虫や小動物を捕食する。



**トミヨ**

背びれに10~13本の小さな棘があり、産卵期は4月上旬~7月初旬である。成魚の体長は7cm程度になる。



**モクズガニ**

淡水域に生息し甲幅7mm程度まで成長すると初夏~秋にかけて川を上る。甲はほぼ六角形でハサミには毛が密生する。



**フクドジョウ**

日本では北海道に分布する。川底に生息し、産卵期は4月下旬~7月である。口ひげはやや長く6本、体は円筒形で長い。



**ハナカジカ**

日本固有種で北海道ほぼ全域の河川(中・上流域)に生息する。成魚の体長は8~16cm程度で定住性が強い。

## 植物



**オオバナエンレイソウ**

花期は5~6月で低地~低山や林、草地などに生育する。草丈20~40cm程度の多年草で群生することが多い。



**ハマナス**

花期は6~8月で海岸の砂丘や草地、山地のれき地に生育する。草丈50~100cm程度の落葉低木で果実は赤く熟す。天塩町の町花。



**ミクリ**

花期は7~8月で、低地の水辺や水路に生育する。草丈50~100cm程度の多年草で、茎は直立し地下茎が伸びて群生する。



**ハマヒルガオ**

花期は6~7月で、海岸の砂地に生育する。草丈10~15cm程度のつる性の多年草で群生していることが多い。



**スイレン**

多年草で、草丈20~50cm程度のヒツジグサが自生する。ヒツジグサの花期は7~9月で、低地~山地の湖沼に生育する。



**エゾクガイソウ**

花期は7~8月で、低地~山地の明るいところに生育する。草丈150~200cm程度の大型の多年草である。



**エゾヤマザクラ**

開花は5月で6~7月に紫黒色の果実を熟す。山地に生える北海道の代表的なサクラで高さ20m、木さ50~80cmになる。天塩町の町木。



**ハマボウフウ**

花期は6~8月で、海岸の砂地に生育する。草丈20~30cm程度の多年草で、根茎や若芽が食材として採取されて数が激減した。



**エゾカンゾウ**

花期は6~8月で海岸に近い砂地に生育する。草丈40~80cm程度の多年草で、朝開花して夕方閉じる一日花といわれる。